



第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会

スイーツセミナー ②



今後のアトピー性皮膚炎治療

かゆみコントロールによる 長期寛解維持の実現

2021.9.18(土) 16:55-17:55

第4会場 ロイトン札幌 2F ハイネスホール
〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西11丁目

ハイブリッド
開催

現地開催および
WEBライブ配信

座長

東北医科薬科大学 医学部
皮膚科学教室 主任教授

川上 民裕 先生

山梨大学 学長

島田 眞路 先生

講演
1

今一度振り返る、
アトピー性皮膚炎の治療戦略
～問診から治療まで～

演者

広島大学大学院 医系科学研究科
皮膚科学 准教授

田中 暁生 先生

講演
2

アトピー性皮膚炎のかゆみの
メカニズムから考える、最新の治療戦略

演者

東京慈恵会医科大学
皮膚科学講座 講師

石氏 陽三 先生

第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会は現地とLive
配信どちらからでもご聴講いただけるハイブリッド開催となりました。COVID-19流行状況により変更になる可能性がありますので、最新情報を下記WEBサイトよりご確認ください。

第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会WEBサイト
<https://eastjda85.jp/>



本セミナー・ご講演に関するお願い

本セミナー・講演中の録音・録画、カメラ撮影、
スクリーンショットはご遠慮ください。また、不正に
撮影された写真等をインターネット(Twitter等)
にアップロードすることも禁止させていただきます。
ご理解、ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。



講演
1

今一度振り返る、アトピー性皮膚炎の治療戦略 ～問診から治療まで～

演者 広島大学大学院 医系科学研究科 皮膚科学 准教授 **田中 暁生 先生**

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2018では、【疾患と治療の目標・ゴールの説明】が必要であると記載されている。ところが、アトピー性皮膚炎患者を対象とした調査結果によると、半数以上の患者において最終的な治療目標を医師と共有していなかったという結果が報告され、患者とのコミュニケーション不足が課題となっている。またアトピー性皮膚炎の特徴であるかゆみについては、患者にとってかゆみの程度を表現することが難しく、医師には患者のかゆみを客観的に評価することが困難という両面の課題があり、治療が難渋するケースも少なくない。近年、アトピー性皮膚炎の全身療法の治療薬は生物学的製剤の登場や経口JAK阻害薬の適応追加等があり、治療選択肢が増えてきた。これらの薬剤を使用する際にも、抗炎症外用薬の併用は必須であり、最終的には外用剤(保湿剤含む)のみで寛解状態を長期に維持することが治療目標となる。アトピー性皮膚炎治療において外用療法が重要であることは変わらないものの、新規全身療法治療薬の登場によって、抗炎症外用薬の使い方や治療におけるその位置づけは変化しつつあるのかもしれない。本セミナーでは患者治療満足度を向上させる治療目標の設定のポイントや、かゆみに対する当院での問診から治療までの取り組み、それらを踏まえた抗炎症外用薬の効果的な使い方について紹介をする。

ご略歴



- 2000年 広島大学医学部医学科卒業
- 2001年 広島大学大学院
- 2005年 JA広島総合病院
- 2007年 Kings College London(英国、ロンドン)
- 2010年 中電病院
- 2017年 広島大学大学院皮膚科学准教授

講演
2

アトピー性皮膚炎のかゆみの メカニズムから考える、最新の治療戦略

演者 東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 講師 **石氏 陽三 先生**

アトピー性皮膚炎(AD)は、2型サイトカインを中心とした免疫異常・皮膚バリア機能障害・かゆみが複雑な病態を形成している。このなかで自覚症状として重要なのがかゆみである。ADの重度のかゆみは生活の質や労働生産性の低下を招く。そのためAD治療においてかゆみの制御は非常に重要である。近年、かゆみのメカニズム解明が進みinterleukin-31(IL-31)など重要な因子が同定されてきた。IL-31は主にTh2細胞より産生されるサイトカインで、その受容体は、L-31 receptor A(IL-31RA)とoncostatin M receptor(OSMR)の二量体から成り、末梢神経や表皮角化細胞などに発現している。IL-31は末梢神経に直接作用して、かゆみを誘発する。さらに、IL-31は、炎症・免疫調整、神経細胞の伸長、皮膚バリア機能調節などの作用を有し、ADのかゆみを中心とした神経免疫コミュニケーションに関わる重要な働きをしている。本講演では、ADのかゆみのメカニズムについて概説し、AD治療薬剤を上手く用いる方法を提案したい。

ご略歴



- 2001年 東京慈恵会医科大学卒業
- 2001年 慈恵医大附属病院皮膚科研修医
- 2003年 慈恵医大附属病院皮膚科レジデント
- 2004年 西埼玉中央病院皮膚科勤務
- 2005年 慈恵医大附属病院皮膚科レジデント
- 2005年 Wake Forest大学皮膚科研究員
- 2007年 慈恵医大附属病院皮膚科レジデント
- 2008年 慈恵医大附属病院皮膚科
- 2008年 NTT東日本関東病院皮膚科勤務
- 2009年 慈恵医大附属青戸病院皮膚科
- 2011年 慈恵医大附属病院皮膚科

